

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 26 日現在

機関番号：34405

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2012～2013

課題番号：24820066

研究課題名(和文) 澤田柳吉の音楽活動に関する研究

研究課題名(英文) Study of the Musical Activity of Ryukichi Sawada

研究代表者

多田 純一 (TADA, Junichi)

大阪芸術大学・人文社会系研究科・助手

研究者番号：90635278

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,300,000円、(間接経費) 690,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、日本人としてはじめてピアノリサイタルを行い「ショパン弾き」と呼ばれた澤田柳吉(1886-1936)の音楽活動について調査し、彼の音楽活動の意義を考察した研究である。各機関が所蔵する明治期から昭和初期の音楽雑誌、遺族所蔵の資料、出版譜、手稿譜、音源資料(SPレコード)、ピアノロール、コンクールの審査記録、海外(台北およびサンフランシスコ)における活動記録といった幅広い資料から、彼の音楽活動が洋楽受容の黎明期においてパイオニアとしての役割を果たしていたことが明らかになった。研究成果は論文2件、研究発表3件、レクチャーコンサート3件、著書1件、CD制作1件として発表した。

研究成果の概要(英文)：This study considers the significance about music activities of Ryukichi Sawada who was the first Japanese pianist to hold a piano recital in Japan, and was called the Chopin player. Sawada's musical activity played a pioneering role, as is shown by documents such as early music magazines from the Meiji to the early Showa period, some documents in the possession of his heirs (pictures, a record album and some scores), published music scores, manuscripts, sound source documents (SP records), piano rolls, recordings of the piano competition as a jury, and records of Sawada's activity in foreign places (Taipei and San Francisco) at the dawn of the reception of Western music in Japan. The results of this research were included two papers, three presentations, three concerts with lectures, a book and a music CD.

研究分野：芸術学・芸術史・芸術一般

科研費の分科・細目：音楽学

キーワード：澤田柳吉 洋楽受容 ピアノ ピアニスト ショパン

### 1. 研究開始当初の背景

本研究は明治期から昭和初期にかけてピアニストとして活動した澤田柳吉(1886-1936)の音楽活動を明らかにする研究である。澤田は東京音楽学校を卒業後、日本人として最初のピアノ独奏会を行った人物としてよく知られている。演奏会記録やSPレコードの録音も多く、洋楽受容史に関する年史などにおいても彼の名前は挙げられる。

澤田柳吉の名前は、洋楽受容史研究において初期のピアニストの一人として久野ひさ(1885-1925)、小倉末(1891-1944)と共に挙げられることが多い。しかしながら、彼の名前は断片的に触れられる程度で、久野や小倉のように具体的な研究が行われて来なかった。ピアニストという職業の確立とその活動について、津上智実を研究代表者とする研究「「ピアニスト」の誕生を考える: 明治末期から昭和初期の本邦洋琴家事情の解明(研究課題番号: 22520164)」においても澤田については研究対象に含まれておらず、本研究においてはじめて彼の音楽活動全般についての研究が取り組まれたと言える。

### 2. 研究の目的

澤田は前述の久野と同窓生であり、明治39年に東京音楽学校を卒業した。その後、我が国において最初の「ショパン弾き」と呼ばれ、明治45年に日本人初のピアノ独奏会を行った。このことはよく知られているが、東京音楽学校に入学するまでの経緯や、東洋汽船音楽部における海外航路での活動、大正12年の関東大震災以後、関西に移り住んでからの活動等は、先行研究にわずかな記述が見られるものの多くのことが不明なままであった。また楽譜出版も行われていたが、彼の作品についての先行研究も見られなかった。そこで、本研究では彼の音楽活動の空白の部分の明らかにしていくことを目的とした。

### 3. 研究の方法

研究目的のうちの具体的な目標として、澤田の作曲活動と楽譜出版について明らかにすること、関西における澤田の活動を明らかにすること、雑誌記事などから資料調査を行いつつ、重要な資料や証言者が見つかった場合には現地調査やインタビューを行うことで澤田の音楽活動を可能な限り明確にする、の3つの柱を挙げた。

については、現存している出版譜、手稿譜について、各機関および関係者への調査を行った。応募時点において国立国会図書館、東京藝術大学附属図書館、東京文化会館、大阪音楽大学音楽博物館、日本近代音楽館などの主要な機関はすでに調査済みであり、すでに8作品の資料の複写を入手していた。明治期および大正期に発刊された雑誌および楽器店のカタログから、入手していた資料よりもはるかに多くの資料が現存していることが判明していた。そのため、資料を所蔵して

いると思われる機関の範囲を広めて調査を行った。調査した機関は、秋田県立博物館、広瀬川美術館、大阪府立図書館、阪急池田文庫、竹久夢二伊香保記念館、竹久夢二美術館である。また、個人として洋楽受容史研究者、遺族、楽譜資料収集者から協力を得た。

また、手稿譜については日本近代音楽館に所蔵されている資料が現時点で発見されている資料のすべてである。同館の協力を得て、特別に複写資料の閲覧、部分的な複写を行った。

については大阪音楽大学音楽博物館が多くの資料を所蔵していることが判明していた。それらの資料の多くは、新聞記事、雑誌記事、演奏会プログラムの原本である。そのため、同館の協力を得て多くの日数をかけて調査した。また、三木楽器開成館、大阪市立視覚特別支援学校、阪急文化財団池田文庫、国立音楽劇場図書閲覧室、京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター図書室の所蔵資料を調査した。

また、澤田が関西に移り住んでから多くの作品を録音したSPレコードについては、故・クリストファ・N・野澤氏からSPレコード研究の進捗状況をご教授いただくと共に、澤田のピアノ・ソロ録音のすべてを集めたデジタル資料を提供していただくことができた。

については、遺族とのコンタクトを取ることができた。澤田の孫にあたる澤田勲男氏、佐久間絹子氏からそれぞれ3回以上のインタビューを行い、澤田家所蔵のアルバムおよび戸籍謄本などの資料提供についても多大な協力を得ることができた。雑誌記事については、『音楽雑誌』、『音楽之友』、『音楽新報』、『音楽世界』、『音楽界』、『音楽』(学友会)、『月刊楽譜』、『音楽新潮』中心に調査を行った。

### 4. 研究成果

#### (1) 澤田の作曲活動と楽譜出版について 出版譜の収集と考察

本研究応募時点において8作品の資料の複写を入手していたことは先に述べた通りだが、この他の資料はOPACなどにおけるウェブ検索では見つけることができない。所蔵している可能性のある機関の資料を調査するか、あるいは個人所有の資料を提供していただく、あるいは古書店にて購入する以外に入手する方法はない。各機関の調査および遺族、研究者、収集家からの協力により、26作品の楽譜を入手することができた。恐らくさらに10作品以内の楽譜が出版されたと思われるが、現時点では発見されておらず、今後も調査の必要がある。

26作品について考察したところ、澤田の作曲活動は、修作期、模索期、円熟期の3つの時期に分けることが可能であった。研究成果は論文「澤田柳吉の作曲・編曲活動と楽譜出版に関する一考察」大阪芸術大学紀要『藝術』

36号、2013、pp.73-84、にまとめた。また、ピアノ・ソロ作品と声楽作品の20作品を新たに録音し、CD『我が国最初の「ショパン弾き」澤田柳吉の世界』として制作した。

#### 手稿譜の調査

現在、約30点の手稿譜が日本近代音楽館に所蔵されている。しかしながら、これらの資料は現在整理中であり、詳細についてはまだ研究者が精査することができない状況である。同館の協力によりすべての作品の表紙および一部分の楽譜部分を複写させていただくことができた。このことにより、手稿譜から澤田の創作過程について詳細を考察することができなかつたものの、日本楽器が製造していた自動ピアノのピアノロール作成に大きく関わっていたことが判明した。

現在、日本楽器（ヤマハ）が製造した自動ピアノを所有し、閲覧することができるのは、秋田県立博物館のみである。調査により同館には澤田が編曲、作成したと考えられるピアノロールが1点所蔵されていた。この発見により、2013年3月には同館にて「明治・大正期のショパン弾き」澤田柳吉と秋田ゆかりの人物」博物館主催レクチャーコンサートを行った。また、他の機関を調査したところ、広瀬川美術館に5点のピアノロールが現存していた（日本ピアノホールディング株式会社代表取締役、中森隆利氏の個人所有）。これらのピアノロールは損傷が激しく、音として再現することは多大なコストと時間を要するため、今後の課題となった。

#### (2) 関西における澤田の活動

##### 大阪音楽大学音楽博物館所蔵の資料

同館には明治期から昭和にかけて関西で行われた演奏会記録をはじめ、レコード発売やラジオ放送、学校の創立など、洋楽受容に関する幅広い資料が年代順にまとめられ、所蔵されている。それらの所蔵資料において澤田の関西での音楽活動の重要性を物語る資料は、大阪音楽コンクールの審査員記録である。現在も行われている日本音楽コンクールの前身である「音楽コンクール」は昭和7年から行われた。その翌年にあたる昭和8年から大阪音楽コンクールが開催されており、澤田は山田耕筰らとともに審査員に選出されている。このことは澤田が関西の音楽界において重鎮であったことを示している。

またコンクール以外にも、はじめてのラジオ出演などの記録が見られ、幅広く活動していたことが明確になった。

##### 三木楽器開成館所蔵の資料

澤田の自筆書簡は遺族のもとにも遺されていない。現時点で発見されたものは三木楽器開成館の資料のみである。澤田は関西に移り住んでから大阪心斎橋において大阪洋楽研究所を開き、ピアノやマンドリンなどの教授を行ったが、そのすぐそばにある三木楽器

との関係が深かったことが判明した。この貴重な自筆書簡は、2014年4月に行われたCD『我が国最初の「ショパン弾き」澤田柳吉の世界』記念コンサートにて特別展示された。

#### 大阪市立盲学校における音楽教師

澤田が最後に取り組んだ仕事は、大阪市立盲学校における音楽教師としての活動である。大阪市立視覚特別支援学校には当時のプログラム、在籍記録、成績などの資料が現存している。倫理的な問題から研究成果として発表することができない資料が含まれるが、資料管理担当者の指導を得て、問題のない資料から今後順次成果を発表する予定である。

成果としては、澤田は昭和4年から非常勤講師として、昭和6年から死亡するまで正規の教諭として同校に勤務したことが明らかになった。また、同校と大阪音楽学校（現・大阪音楽大学）の両校より同時に教員になる依頼があり、自身の生徒にどちらの教員になるのがよいのか意見を募ったことが弟子の手記により明らかになった。

#### SPレコード録音

澤田は東京時代からSPレコードを録音している。大正8年に発売（東京レコード：1390-91）されたルードヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン作曲《ピアノ・ソナタ》op.13「悲愴」第1楽章は、日本人として最初のベートーヴェンのピアノ・ソナタの録音である。関西に移り住んでからは、大正12年（ニッポン・レコード：1029）、フリデリク・フランシシェク・ショパン作曲《軍隊ポロネーズ》op.40 No.1が最初に発売されている。この録音は日本人として最初のショパン作品の録音である。SPレコードについては研究者よりもコレクターの方が詳しい。2013年8月に他界された故・クリストファ・N・野澤氏は澤田のピアノ・ソロ録音資料をすべて所蔵しておられ、音源を提供して下さった。それらの音源は、澤田が作曲したピアノ・ソロ作品と声楽作品の計20作品の新たな録音と共に、2枚組としてCD『我が国最初の「ショパン弾き」澤田柳吉の世界』に収録した。

#### (3) 雑誌記事の調査および遺族へのインタビュー、その他の音楽活動

##### 雑誌記事の調査

澤田は関東大震災をきっかけに関西へ移り住んだ。これを機会に、いわゆる「中央楽壇」の音楽活動を中心に記事を掲載する雑誌記事から澤田の名前は激減することが雑誌記事の調査で判明した。

しかしながら、死亡した昭和11年には各雑誌が彼の追悼記事を大きく取り上げていた。いずれも署名入り原稿で、小松耕輔や伊庭孝が彼の音楽活動やエピソード、関東大震災後の彼の様子を伝えている。

##### 遺族へのインタビュー

遺族へのインタビューにより、多くのことが判明した。戸籍謄本を確認したところ、これまで彼の誕生日は明治19年3月13日であるとされてきたが、正確には同年3月19日である。また、澤田の墓については事情から現存していないことも判明した。

澤田の次男・隆廣氏は澤田の人脈により日本楽器に勤め、第二次大戦後はヤマハ銀座店にて調律師となった。東京文化会館の最初の専属調律師でもある。孫にあたる隆廣氏の長男である勲男氏もまた調律師であり、明治期に「日本のショパン」とも呼ばれた柳吉の資料の重要性を知った上で、手稿譜やアルバムを守ってこられたとのことである。同じく澤田の孫にあたる佐久間絹子氏のもとにはセノオ楽譜や、太田黒元雄から贈られたドビュッシーの《前奏曲集》、クロイツァー版ショパン《ソナタ集》の楽譜が所蔵されている。おふたりとも澤田との死後に生まれており、間接的ではあるが父親である隆廣氏から知らされた澤田の印象を語ってくださった。

また、東京藝術大学には多くの公文書が所蔵されており、その中には澤田の学生時代の成績が判明する資料も含まれている。この資料の閲覧については遺族を代表して勲男氏が閲覧許可を出してくださった。

東京音楽学校入学までの澤田の足跡については未だ不明な点が多く、佐久間絹子氏の協力を得て、現在も調査中である。

#### 台湾における音楽活動

澤田が台湾で音楽活動を行ったことは知られているが、具体的に何年から何年まで台湾に住んでいたのかは不明であった。そこで本研究では台湾で現地調査を行った。台北中央図書館分館（現・国立台湾図書館）、台北市立教育大学、台北市立建国高級中学、国立台北教育大学、国家図書館、台湾大学図書館に訪れ、資料を閲覧・複写した。台北市立建国高級中学および台北市立教育大学では、それぞれの校史室にも入室し、担当教員から資料の所蔵状況や校史室の位置づけ、澤田に関する記述や資料についてご教授いただいた。しかしながら、当時の教員名簿や成績表をはじめとする学校所蔵の資料や演奏会プログラムなどは一点の資料も現存しておらず、調査は難航した。古い資料を残すよりも、図書館がリニューアルしたり担当者が代わる度に資料を破棄している傾向があり、一次資料が決定的に少ないことがわかった。

台北中央図書館分館（国立台湾図書館）では『国語学校校友会雑誌』や『台湾日日新報』といった、わずかながら澤田に関する記述のある資料を確認することができた。また、『台北師範学校創立三十周年記念写真帳』、『台北師範学校創立三十周年記念誌』（いずれも大正15年出版）、『台湾総督府学時年報』、『台北州立台北第一中学校報国校友会雑誌 麗正』など貴重な資料を確認した。そのことにより、台湾で実際に活動した期間は明治42

年4月から明治43年3月までの1年間であり、台湾総督府中学校および国語学校にて貴中学教師をしていたことが判明した。また、1件のみ演奏会に出演した記録があり、東京音楽学校卒のピアニストとして活動していたことも明確になった。

#### 東洋汽船とサンフランシスコにおける音楽活動

澤田が船上バンドマンとして活躍したことも知られているが、その詳細は不明である。本研究ではサンフランシスコ出張を行い、彼の演奏記録など資料調査を行った。

当時サンフランシスコで主に出版されていた日本人向け新聞およびアメリカ人向け新聞、演奏会プログラムを調査した。具体的には、ジャパニーズ・アメリカン・国立図書館、国立ジャパニーズ・アメリカン協会を訪問すると同時に、サンフランシスコ公共図書館所蔵の1913年の演奏会プログラムのファイル、新聞データベース、カリフォルニア大学バークレー校所蔵の資料および、カリフォルニア校から取り寄せた資料の調査である。

調査の結果、澤田は1913年に4回サンフランシスコに渡米しているが、いずれにおいても恐らくリサイタルは行っていないという結論に至った。その理由は、当時の日本人向け新聞には澤田よりもネームヴァリューの小さい音楽家の活動などが紹介されているにも関わらず、当時日本で最も有名であったと思われる澤田の名前が一度も新聞記事に見ることができないからである。この調査結果と同時に、澤田が乗った春洋丸がいつサンフランシスコに到着し、いつ日本に向けて出港したのかを明らかにすることができた。

#### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計2件)

多田純一 「澤田柳吉の作曲・編曲活動と楽譜出版に関する一考察」、査読有、大阪芸術大学紀要『藝術』36号、2013、pp.73-84。

多田純一 「「ショパン弾き」のピアニスト・澤田柳吉について：東京音楽学校時代の音楽活動」、査読有、公益財団法人日本ピアノ教育連盟『紀要』第29号、2013、pp.71-86。

〔学会発表〕(計3件)

多田純一ほか 「澤田柳吉の出版作品 - 日本人最初のショパン弾きによる未発表作品を含む -」、大阪芸術大学第58回 教員研究発表会、大阪：大阪芸術大学、2013年9月。

多田純一 「澤田柳吉の作曲活動と作品出版について -音楽雑誌に掲載された初期作品から遺作まで-」、日本音楽表現学会 第11回大会、岩手県：盛岡文化センター、2013年

6月。

多田純一 「「ショパン弾き」のピアニスト・澤田柳吉について - 東京音楽学校時代の音楽活動 - 」、第29回日本ピアノ教育連盟全国大会、東京都:東京藝術大学、2013年3月。

〔図書〕(CDを含む)(計2件)

多田純一ほか CD『我が国最初の「ショパン弾き」澤田柳吉の世界』東京:ミッテンヴァルト、2014(ライナーノーツ、監修者、ピアニストとして参加、3月29日に50枚を入荷し関係機関に配布した。)

多田純一 『日本人とショパン 洋楽導入期のピアノ音楽』東京:アルテスパブリッシング、2014(博士論文のリライトに本研究の成果を部分的に反映させ、塚本学院出版助成金を得て出版)

〔産業財産権〕なし  
出願状況(計 件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
出願年月日:  
国内外の別:

取得状況(計 件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
取得年月日:  
国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

大阪芸術大学芸術研究所ホームページ  
「澤田柳吉の作曲・編曲活動と楽譜出版に関する一考察」、査読有、大阪芸術大学紀要『藝術』36号、2013、pp.73-84。

[http://www.osaka-geidai.ac.jp/geidai/research/laboratory/bulletin/pdf/kiyou36/kiyou36\\_08.pdf#search='%E6%BE%A4%E7%94%B0%E6%9F%B3%E5%90%89+%E5%A4%A7%E9%98%AA%E8%8A%B8%E8%A1%93%E5%A4%A7%E5%AD%A6'](http://www.osaka-geidai.ac.jp/geidai/research/laboratory/bulletin/pdf/kiyou36/kiyou36_08.pdf#search='%E6%BE%A4%E7%94%B0%E6%9F%B3%E5%90%89+%E5%A4%A7%E9%98%AA%E8%8A%B8%E8%A1%93%E5%A4%A7%E5%AD%A6')

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

多田 純一 (TADA, Junichi)  
大阪芸術大学 人文社会系研究科 助手  
研究者番号: 90635278

### (2) 研究分担者

( )

研究者番号:

(3) 連携研究者

( )

研究者番号: